

---

# 夢と現実と醒めない夢

柁 麻容

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢と現実と醒めない夢

### 【Nコード】

N9442C

### 【作者名】

密 麻容

### 【あらすじ】

夢と現実。今見ている世界はどちらなのか。神（葵）が言ったのは「迷ったときは現実だと思えばいい」。その真意は誰にもわからなかった。 <泉里と由宇の会話の一幕マ>

夢か現実かわからなくなったとき。この世界は現実だと思った方がいいよ。

「って、葵さんに言われたんだけど」

葵らしいな、と思った。でも、神が言う台詞じゃない。そんな断定は意味がなさすぎる。

その台詞は、由宇にだからこそ言えるものだった。

「まあ、夢だと思うよりは良いよね」

現実なのに夢だと思つて無茶をするよりは良い。だけど、現実だと思ひ込みすぎるのは危険だった。夢の中でも息抜きできないのは、睡眠に障害を与える。だから、意味のない断定だった。

「夢に逃げるなつてことかな」

夢のせいにして、現実から目を背けないように。それも解釈できる。でも、これは単純解釈で良かった。

「夢か現実かわからないときつて夢だと思いたい状況にあるからね。悪いことだから、夢だと思いたいんだ。良いことだったら、本心で現実だつてわかつているからね」

見たくない現実。この世界はそんなものが多いある。

そんなときに『これは夢だ』と思いたくなる。そして、現実と夢が曖昧になる。

「醒めない夢が現実なんじゃないかつて思ふことはあるけど」

「まあ、それも込みで『現実と思え』つてことだね」

明確な答えは避けた。『世界の関係者』の自分でさえ、この世界は神の夢なのかもしれないと思ふことがある。でも、その世界で生きてるのが確かなら。睡眠で見る夢以外は現実だと思つている。

「迷つたときは僕に訊けばいいよ。君が納得できるなら」

自分が納得できればいい。その答えが自分にとっての正解だった。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9442c/>

---

夢と現実と醒めない夢

2010年11月17日03時14分発行